



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局

2009年度定時総会開催

2009年度の定時総会は、5月31日（日）14時30分より、県民サポートセンター711号室で開催され、会員23名が出席しました。定時総会は定刻に開会され、下山会長より開会の挨拶があり、続いて協会規約第10条（総会）2項に基づいて、総会議長の座に会長が着き議案の審議を開始しました。

第1号議案「2008年度事業報告」については飯塚副会長より報告が行われました。

第2号議案(1)「2008年度一般会計決算報告」については宮崎副会長より報告が行われ、続いて同議案(2)「監査報告」は井口監事より2008年度会計処理は適正に執行された旨の報告が行われました。

第3号議案「2009年度事業計画案」については、飯塚副会長より、第4号議案「2009年度一般会計収支予算案」については宮崎副会長より説明が行われました。



▲議長を務める下山会長（右）

各議案につき衆議を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て可決されました。

第5号議案「その他」については、特に提案は無く、定時総会は15時15分議長が閉会を告げて終了しました。

総会后、同じ会場において、出席者全員で簡単な懇親会を行いました。来年の協会創立20周年に向けての意見交換や、会員主催の催し企画の情報交換など、和気あいあいのうちに16時に懇親会を終了しました。

（山崎宗城）

協会創立20周年記念企画の準備スタート

AIYES通信53号でお知らせしました記念企画は、各担当理事が主体となり準備を始めています。

1. 横浜スペイン協会創立20周年記念パーティーならびに全国スペイン協会会議

日 時：2010年6月11日（金） 15：00～20：00（予定）

会 場：ホテルモントレ横浜 横浜市中区山下町6-1（山下公園前） TEL：045-330-7111

2. 記念講演会

スペインに関する恒例の「セルバンテス懇話会」第13回大会（2010年度）は、横浜スペイン協会創立20周年記念行事とあわせ、横浜で開催されることになりました。

2010年6月26日（土）の開催を予定しています。会場・テーマは未定です。

3. 記念コンサート

クラシック・ギターの第一人者である莊村清志氏と、バロックから現代音楽までの幅広いレパートリーを持ち、スペイン音楽を得意とするピアニストの下山静香さんによるコンサートを企画しています。開催は2010年9月の予定です。

4. 私たちのスペイン展（会員作品展）

時期と会場に関しては「記念コンサート」と連動して開催する計画です。15周年の時と同様に写真・絵画・手芸品などを対象としますので、スペイン旅行などの機会にご準備をお願いします。

5. AIYES通信協会創立20周年記念号の発行

2011年1月1日号を「協会創立20周年記念号」として、フルカラー（32ページ）でのAIYES通信の発行を計画しています。20周年行事として行われるすべてのイベントの記録をはじめ、他の地域のスペイン友好団体にもご協力いただいたり、会員の皆さんからのとっておきのエピソードを掲載したりと、少し欲張った構成にしたいと思います。

その他の企画については決定次第AIYES通信、ホームページを通して逐次お知らせします。

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

スペイン・サロンでは、多数の会員が参加できるようなテーマ、アイデア等を募集しています。講師やサロンに対するご意見・ご要望をお持ちの方はぜひ、サロン担当までご連絡ください。

●2009年9月のスペイン・サロン

「カミーノ・デ・サンティアゴ巡礼と奉仕の旅」

昨年9月にカミーノ・デ・サンティアゴでの経験談をお話いただいた問屋正勝会員が、今回三度目の訪問をしました。今回は現地の新聞にも取り上げられるなど、前回とはまた違った経験を語っていただきます。サンティアゴ巡礼路に興味のある方はぜひお越しください。

日 時：9月5日（土）13：30～15：30

会 場：横浜市市民活動支援センター4階（JR桜木町駅下車・徒歩7分）

講 師：問屋正勝会員

会 費：会員 500円 一般 700円

☞お問合せ・お申込み

サロン参加希望の方はホームページをご覧ください。下記のアドレスまでメールにてお問合せ・お申し込みください。

ホームページURL <http://www.yokohama-spain.jp/>

スペイン・サロン担当 石井加奈弘 e-mail aiyes_salon@yokohama-spain.jp

●今後の開催予定（詳細が決まりましたら、「AIYES通信」、ホームページなどでお知らせします）

- ・2009年12月5日（土）または12日（土）13：00～17：00

「スペイン料理を作って食べる会」横浜市技能文化会館／料理研修室（JR関内駅下車 徒歩5分）

正式な日程が決まり次第ホームページなどでお知らせします。料理研修室は人数制限がありますので、事前予約による参加とさせていただきます。

- ・2010年2月「親睦パーティー」

恒例の「親睦パーティー」を「マグノリア教室」との共催で行います。

歴史と文化を知るスペイン・サロン

●4月のスペイン・サロン

「イスパニア・ロマネスクを語る」

講 師：イスパニア・ロマネスク研究家 勝峰 昭氏

日 時：2009年4月18日（土）13:30～15:30

会 場：横浜市民活動支援センター4階／研修室

情熱の国、照りつける太陽、白い村、フラメンコ——こうしたステレオタイプなスペイン特集を目にすることが急激に減りました。一昔前ならば美食地域として注目されることの多かった北スペインですが、ここ数年は日本にもサンティアゴ巡礼ブームが押し寄せています。レジャーとしてカミーノを訪れる人も増え、その存在はぐんと身近なものになっています。

私の周りにもカミーノ経験者が増えましたが、誰かがカミーノを歩く理由を尋ねたりはしません。でも、その武勇伝をうかがうにつけ、青空を求めたスピード競争ばかりじゃ少しもったいない気がします。私が北を目指す理由は、そこに息づく信仰や芸術を見たいから……。

『キリスト教三大聖地のひとつ、サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼が最盛期を迎えた11世紀から13世紀、欧州各地の巡礼路沿いに盛んに教会が造られ、巡礼の道標となるよう、高い鐘楼が設けられた。小さな石やレンガを積み上げたロマネスク教会は、強度を保つため、内部は厚い壁でいくつもの空間に仕切られ、窓もごく小さなものが設けられるだけ。昼間でも暗い。文盲率が高かった時代、視覚によって聖書の教えを説く方法が採られた。ステンドグラスを埋め込む大窓を造る技術が誕生するまでは、フレスコ画で聖書の世界が再現された』——私はこの程度の知識でロマネスク建築を追いかけては、ときに聖書の場面を思い出し、憎めない彫刻群にほんわか優しい気分に入るのが昔から好きでした。

勝峰先生のお話をうかがううち、いつしか私の心は現地の古い教会に旅を始めています。長年不思議に思いつつ放っておいたさまざまなロマネスクの謎を、先生は待ち構えていたように紐解かれます。

イベリア半島が8世紀にわたり、ずっとイスラム占領下に置かれたかのような記述をするガイドブックが少なくありませんが、実際に巡礼路周辺がアル・アンダルスの統治下に置かれた期間は、せいぜい300年。しかし、我々の歴史観からはそれほど長い期間に感じなくても、単純に見積もって300年間で10回は世代交代が繰り返されることになります。キリスト教芸術とはいえ、その環境下でイスラム芸術の影響は不可避でした。たとえば、サント・ドミンゴ・デ・シロス修道院の回廊レリーフ「トマスの不信」に見られる、迫り来るような階段状の人物配置、そして一点に集まる彼らの視線。また、絵画における遠近法の成立はルネサンス期まで待つことになりますが、それゆえロマネスク芸術には距離感を無視して重要なものほど大きく描く技法を見出し、驚くほど頭でっかちな人物彫刻などを登場させたのでしょう。そのアンバランスさが、えもいわれぬ愛らしさを醸し出します。また、不自然なほどの爪先立ちは、驚きや感動に心が震えるさまを表し、神聖な場所にそぐわぬ醜い怪物や獣は、対極する「美」の引立て役となります。知らなければ偶然の産物にしか感じられないものすべてに、ちゃんとした理由が存在するのです。

何百ものロマネスク建築を自らの足で訪れ、ひとつひとつの図像を丹念に読み解き、慈しむように語られる勝峰先生のお話に、私はいつしか身を乗り出し、瞬きすら忘れ、爪先立ちになりかけている自分に気づくのでした。スペイン・サロンでお話をされた後、勝峰先生はまた北スペインへ旅立たれました。新しいお話をうかがえる日を楽しみにしています。

（山田るり子）

引用：「女ドン・キホーテ スペインをゆけ！～カタルーニャ、ガリシア、アンダルシア 濃縮還元100%の旅（P.42-43）」（2003年 studio R.S.I. ルリコ著）



▲膨大なビジュアル資料を用い、明快に語る勝峰昭先生

スペイン王室500年 ―― その光と陰

—— 渡辺 文子 ——

私は今まで歴史に特別の興味を抱いたことがない。しかし、外短（神奈川県立外語短期大学）の履修生として君塚先生の米国史を受講した時、心が動いてしまった。歴史を読み解く物語にわくわくさせられた。

情熱の国スペインの王室物語を君塚先生が語る。第一部は王国の始まりから1931年の第二次共和制の始まりまでの約400年余だ。カスティージャのイサベル1世とアラゴンのフェルナンド2世の結婚からイスパニア王国が成立した。そして王家の血は政略結婚を繰り返しながら引き継がれていく。権力の維持と国家間のせめぎ合いの中に王族は生きる。ハプスブルグ王朝時代、ブルボン王朝時代、一時ナポレオンの兄の即位を挟んで復古ブルボン王朝時代、第一共和制時代を経て再復古ブルボン王朝時代と続く。広大な領土、太陽の沈むことのない大帝國を治めることとなったカルロス1世（通称：カルロス5世）は長い遍歴の旅をせざるを得ない。彼はスペイン語さえ話せない。カルロス2世は度重なる血族結婚から遺伝的欠陥者だった。無力な王も存在した。

第二部は私たちもよく知る現スペインのファンカルロス1世国王とソフィア王妃の物語である。内気で弱気で内向的で物静かな王と、苦勞人でしっかり者の心優しい王妃であろうかと私は受け止めた。王は独裁者フランコ將軍の目にとまり、スペインで帝王学を学ぶ。陸・空軍の訓練を受けた。弟の事故死に何らかの関わりを持つともされる。クーデターの危機にはテレビで国民にメッセージを伝え実質的に力を発揮した。王妃はギリシャ王室出身で亡命生活を経験し、ドイツに留学しアテネ小児病院看護学校に学ぶ。ソフィア財団の慈善活動や難民支援に力を注ぐ。



▲スピード感のある軽妙なトークが持ち味の君塚先生

このスペイン王室と日本皇室との関わりについての挿入話も印象的だった。高松宮ご夫妻は1930年秋、耳疾のハイメ王子の大声に驚いた。また王子を隠すことのない王室を見た。今上天皇ご夫妻と現スペイン王室の交流は数回ある。

第三部は質疑と先生のサービス話だ。とにかく授業は本題よりも先生の脱線話が面白い。1994年天皇のスペインご訪問時スペイン王室から贈られていたゴールデン・フリース勲章が空港で消えたがスペイン王室の深い思慮で救われる。

時間・空間の軸が確固として、複雑な関わりを的確に意味づける君塚式解説に、またわくわくするひとときだった。

スペインの最新事情あれこれ

—— 近藤 正武 ——

私は協会のスペイン語講座の、栗山由美子先生のクラスの老受講生（非会員）ですが、7月のサロンで先生が「スペインの最新事情あれこれ」と題した講演をされると聞き、クラスで日ごろ現地事情を学んでいることもあって、さっそく出席させていただきました。県民サポートセンターの会場は満員の盛況でした。

お話の後、先生が約3週間をかけて回られたマドリード、サンティアゴ・デ・コンポステーラ、レオン、サラマンカや「銀の道」などの各地でのスナップの映写を見せていただきました。

さて最初のお話はマドリードのデスカルサス・レアレス修道院を訪れた印象でした。

この修道院は、カルロス1世の王女ファナ・デ・アウストリアによって1559年に創設されたもので、現在でも町のど真ん中にありながら、修道女たちは外部の人にも会わず、一生外出もしないという古い伝統が守ら

れているそうです。先生によれば、今回の旅で一番感動されたのはここ。「静寂に包まれた修道院の中で、修道女たちが日々送る、昔ながらの凛とした宗教的世界に心から感銘した」と仰っていました。一般的には、ことに若い人は宗教から遠ざかりつつあり、教会では神父さんも信者も老人ばかり。いまに教会も維持困難になりかねない、というのが先生のご感想でした。

次の話題はサパテロ政権成立以降の「性」に関連する法律改正（規制の緩和）の動きで、①2005年に同性カップル間の結婚と養子受け入れが認められたこと（結果、昨年の全国約20万件の結婚のうち同性婚は約3,500件）、②本年5月、人工妊娠中絶の条件を大幅に緩和する法律改正案を閣議で承認（16歳以上で妊娠14週目までの女性は自らの判断で中絶を選択できる）、③事後避妊薬の購入の自由化（今年8月予定）、の3つが紹介されました。

これらの改正は、いずれも現在のやむをえない事情に即応するためなのでしょうが、当然教会を中心とする反対も根強い、とのことでした。

最後は「ボローニャ・プロセス」の紹介でした。1999年に、欧州域内の高等教育の国際競争力の向上と、人の交流の促進を目的とする「欧州高等教育圏」の枠組みの構築を目指す「ボローニャ宣言」が欧州29カ国によって採択されました。それによれば、2010年までに、各国間の比較が可能な共通の学位制度の導入、単位の互換制度の確立などの課題の達成が各国に求められています。いわば、域内各国の複数の大学から自由に各国共通の単位、学位を取得し、スキルを身につけることが可能になる、ということでしょう。先生のお話では、このプロセス誕生の背景には、ご多分にもれず公立大学の予算不足、各大学の独立採算制の指向から授業料値上げ、企業の資金提供の承認という一連の動向があるとのこと。これに反対する学生運動も活発だということでした。先生からも、「大学が実学偏重になる恐れがあるが、それでよいのであろうか？」という根本的な疑問が提出されました。

講演の結びとして、先生から「古いものと現在が同居するスペイン。その歴史は実に面白い。皆さんもこうした意識でスペインを見続けて欲しい」とのメッセージがありました。

以上、先生の感性、現地人脈、そしてリサーチのおかげで、スペインのビビッドな最新事情を学ぶことができました。拝聴の機会を与えて下さった協会と栗山先生に深謝いたします。



▲いつも聴衆を引き込む栗山先生

▶▶▶ スペイン語教室からのお知らせ ◀◀◀

●2009年10月 新規開講 入門クラス「マルガリータ」

2008年度より入門クラス「アマポーラ」を担当されている山田るり子先生の新しいクラスがスタートします。スペインで出版されたテキストを使い、ABCからスタートします。日本語による解説ですので、接続法までの基礎文法をしっかりと固めたい方、もう一度スペイン語をやり直したい方にもお勧めです。

講師：山田るり子会員

日時：毎月曜日、原則月3回 14:45～16:15

会場：県民サポートセンター7階

受講料：協会会員は27,000円、一般の方は29,000円（半年18回分前納）

テキスト：nuevo español 2000 elemental (SGEL)

●ラケル先生復帰

4月から産休に入られていたラケル先生に6月、女の子が誕生しました。おめでとうございます。9月より、「ビオレタ（中級、水曜10:30～）」と「ロサ（入門、水曜13:15～）」に復帰されます。

●フランシスコ先生、アインゲル先生デビュー

ベアトリス先生の退職に伴い、9月からはフランシスコ先生（グラナダ出身）が「カメリア（初級、月曜13:00～）」、アインゲル先生（ビルバオ出身）が「ヒラソル（初級、水曜10:30～）」、「クラベル（初級、水

曜13:15～」を担当されることになりました。

☞お問合せ・お申込み

協会では、他にもさまざまなクラスを開催しています。ホームページをご覧くださいか、下記のアドレスまでメールにてお問合せ・お申し込みください。

ホームページURL <http://www.yokohama-spain.jp/>

スペイン語教室担当 久保田誠志 e-mail aiyes_language@yokohama-spain.jp

スペイン語教室連絡会開催

5月24日、横浜プラザホテル14階「レストラン・ルファール」にて、スペイン語教室をスムーズに運営していくために教室の各先生と協会の教室担当委員、そして今年から受講生3名を交え合計11名で懇談会を行いました。

冒頭、会長より先生方に対して日ごろの労いの言葉と、来年の20周年記念行事へのスペイン語教室からの参画への期待の話がありました。

懇談は和やかな雰囲気の中で先生・受講生・教室担当委員の三者間で有意義な意見交換ができ、特に今年実現できた夏季特別講座のアイデアもいただき、実りあるミーティングでした。



▲スペイン語あり日本語ありの、賑やかで楽しい午後のひとときとなりました

(久保田誠志)

*** 協会はスペイン語を楽しく学ぶ場を提供しています。そのクラスを紹介していきます。**

スペイン語教室紹介 アサレア (Azalea)

このクラスでは、月に1回、第3土曜日に波止場会館で小説を読んでいます。先生はスペイン、ナバーラ出身のベラスコ先生。

生徒は女性ばかり8人ですからハーレムといった感じで、先生はますますお元気です。「まだ多摩墓地（奥様のご実家のお墓があるそうです）には行けない」が口癖です。

テキストは「El Embrujo de Shanghai（上海の幻影）」。

一昨年秋から読み始めてこつこつと、ようやく3分の1あたりまで進んできました。

作者はフアン・マルセ。1933年、バルセローナ生まれ。数多くの作品を発表しており、昨年は、ラテンアメリカを含めスペイン語で優れた作品を世に送り出す文学者に与えられる「セルバンテス賞」を受賞しています。そのような人の作品に巡り合ったタイミングに喜んでいます。

この小説の舞台はスペイン市民戦争終結後しばらくしてからのバルセローナの下町。戦争の影が残る町での市民の暮らしから始まり、戦争で余儀なく亡命させられた男と仲間達、また男の家族をめぐる話です。話も佳境に入り、物語が大きく展開してきました。注意して読まないと、特に登場人物の会話の中での時（テンス）と人称が混乱してしまいます。このクラスでは日本語はご法度。日本語での解釈、日本語への翻訳に



▲ユーモラスなベラスコ先生。身振り手振りを交え、スペイン語だけで授業を進めます

慣れてしまっている者としてはスペイン語で説明される微妙なニュアンスがはっきりと受け取れないことがよくありますが、そこは想像力でカバーすることにしています。

読み終えるにはまだまだ時間がかかりそうです。これからも今まで通り、わいわいと楽しみながら、バルセローナや上海の地図を参考にして、登場人物たちの動きを追いながら読み進んでいくことになるでしょう。

文学に関心をお持ちの方、途中からでもどうぞお仲間にお入りください。ストーリーなどは皆でフォローいたしますから。
(松本益代)

//////////////// 賛助会員紹介 //////////////////

スペイン料理 レストラン・オリーブ

オーナーシェフの中村義雄さんにお話をうかがいました。中村さんが最初に修業を始めたのは東京代々木にあるレストラン（当時はタベルナ）の「ロス・プラトス」でした。その後、1973年にスペインへ本格的なスペイン料理の研修に出かけマドリードの国立ホテル・レストラン学校で学んだ後、ホテル・ミンダナオで修業をしました。1976年に帰国し都内のスペインレストランで2年間働いた後、1979年横浜駅西口の東急ホテルに近い場所にレストラン・オリーブを創業しました。10年後の1989年に石川町にレストランを移転、そして1993年12月11日に横浜駅東口に近い現在の場所に開店しました。

好評のメニューは、

パエリア（1,300円～）

小エビのガーリックソテー（1,250円）です。

ランチメニューは3種類。

A：日替わりセット（900円）

B：スパゲティ6種から選択（800円）

C：スパゲティ3種から選択（600円）

毎週金曜日にはパエリア・サラダ・コーヒーのセット（900円）がお勧めです。

スペインワイン、スペインビールもお楽しみ下さい。パーティー（20名以上）も可能です。

〒220-0011 横浜市西区高島2-5-10 ストック菱沼ビル1F

TEL：045-441-4996

定休日：月曜・祝日



▲オーナーシェフ（右）とスタッフの皆さん。スペインの国旗色の看板とオリーブの木が目印

ー賛助会員各社の会員サービス内容ー

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用の割引
日西商事（うさぎのいる島）	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

創立20周年記念プレイベント ♪♪ AIYESコンサートを開催 ♪♪

来年は、当協会が誕生してから20年になります。人間でいえば成人式を迎えるといったところです。協会ではこれを記念して、すでに「AIYES通信」でお知らせしてあるとおり、いろいろなイベントを企画していますが、そのプレイベントとして下記の通り「ラテン音楽の歓び」と題したコンサートを開催します。

プログラム中のピアソラの曲「ブエノスアイレスのマリア」はタンゴ・オペリータ（タンゴによる小オペラ）と名づけられた語りと歌で進行するミュージカル的作品です。ストーリーはタンゴという音楽そのものを擬人化し、マリアの人生を通してタンゴという音楽が出来るまでの苦悩を表現しています。この作品にジャズやクラシックも形式をちりばめ、タンゴに現代的形式を与え新しい次元を開いたともいわれています。なお詩の朗読はスペイン語クラスを担当するスペイン人が行います。

このコンサートを会員皆様の協力で大いに盛り上げていきたいと思ひます。会員の方はもちろん、お友達を誘ってぜひとも会場まで足を運んでください。そして楽しいラテンのリズムに、みんなで酔いしれましょう。

日 時：2009年11月27日（金）

開 演：19：00（開場：18：30）

会 場：かなっくホール

JR東神奈川駅・京急仲木戸駅より
連絡橋「かなっくウォーク」で1分
東急東横線東白楽より徒歩10分

入場料：3,000円（当日3,500円）

出 演：岩崎良子（ピアノ会員）

石井三栄子（ヴォーカル会員）他

☎お問い合わせ：musica@yokohama-spain.jp



//////////////// 新入会員紹介 //////////////////

笠間 和歌子 (Wakako Kasama)

横浜市 2009年9月1日入会

語学を勉強するならスペイン語、と思って始めました。それから30年余り、子育てで勉強ができない時期もありましたが、主人の仕事でボリビア、ウルグアイ、コロンビアに住む機会がありました。帰国してからは、日本に住む南米の人々の助けになるようなボランティア活動をしています。

<編集後記> 協会創立20周年も間近に迫り、記念パーティをはじめ各企画も具体的になってきました。

多くの会員の方が楽しみに待っていることでしょう。まずはプレイベントのコンサートを盛り上げて来年の本番を成功に導きたいと思ひます。せつかくの20周年ですから、スペイン展への出展や各企画のお手伝いなどに関わっていただければより思い出に残るものになるのではないのでしょうか。AIYES通信記念号ととも皆様のご協力をお待ちしています。（鈴木生雄）

編集委員 山田りり子 石井加奈弘 久保田誠志 佐藤陸雄 澤田真人 鈴木生雄 宮崎紗伎 山崎宗城 山下幸子 渡邊昭夫 飯塚 劭

* 投稿寄稿宛先

横浜スペイン協会会報係 e-mail: aiyes_press@yokohama-spain.jp

横浜スペイン協会URL http://www.yokohama-spain.jp

次号の原稿締切は

11月10日(火)です。

投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。